

# 犬山学



追悼 竹内誠先生と犬山学  
名鉄広見線沿線の地学  
犬山学 ネットワーク参加機関 2021年度活動予定  
犬山学研究センター予定



竹内 誠先生

## 追悼 竹内誠先生と犬山学



犬山学ネットワーク発足記念講演会にて

犬山学ネットワークの参加機関である徳川林政史研究所の所長を長年に亘り務められた竹内誠先生が、令和2（2020）年9月6日に永眠されました。

竹内先生は、東京教育大学大学院を修了され、専門は江戸文化史・近世都市史で、徳川林政史研究所主任研究員、信州大学助教授、東京学芸大学教授、立正大学教授を経て、東京都江戸東京博物館の初代館長に就任されました。江戸東京博物館では開館準備から携わり、18年間の長きに亘って館長を務められて、江戸文化の発信に情熱を傾けられました。また、徳川林政史研究所でも所長として、若い研究者たちを激励し、多くの後進を育てられました。主著『寛政改革の研究』（吉川弘文館）や『江戸社会史の研究』（弘文堂）など多くの書籍を刊行され、近世史研究に重要な貢献を果たされました。さらに、日本相撲協会の教習所講師、日本博物館協会顧問、NHKの大河ドラマや金曜時代劇の時代考証を担当されるなど、歴史学を社会につなげる役割を果たされました。また、竹内先生は講演の名手であり、落語に学んだ軽妙な語り口で江戸の庶民文化や大名文化について分かりやすく語られ、多くの聴衆を魅了されました。

このように、竹内先生は優れた研究者・教育者であるとともに、市民への社会教育や歴史まちづくりにも貢献された歴史学の巨人でしたが、犬山学研究センターとも深い縁を持っていました。竹内先生は犬山学研究センターの設立を大変に喜んで下さり、さまざまなご助言を賜りました。犬山学ネットワーク発足記念講演会（2018年12月4日）では、竹内先生に「犬山学に期待するー江戸東京学の体験からー」と題してご講演頂きましたが、それは江戸東京学から犬山学へのエールでした。ここでは、竹内先

生のご講演の要点を紹介し、在りし日の竹内先生を偲びたいと思います。

竹内先生は、細分化された歴史学ではなく、時代の転換点における取捨選択の結果としての江戸と東京の連続性を研究する学問として「江戸東京学」を提唱され、研究機関や分野の制限を超えた学際的で自由な議論の重要性を強調されました。

また、このような江戸東京学を実現する場として、江戸東京博物館を市民が楽しみながら学ぶことができる体感型博物館として運営したことや、日本橋の新しい街づくりにおいて江戸に学んで商業施設・信仰・娯楽が融合する街づくりをめざしたことをお話しされました。

そして、最後に犬山学への助言として、研究成果を社会還元するために研究者と市民が一緒に関わること、さまざまな研究分野が交流する学際的な学問であるべきこと、教育普及として地域の小中高校と連携すること、自分達の地域が一番という偏屈傲慢なグローカリズムに陥らず、比較の中で発展性を持つような地域学をめざすべきこと、犬山学をどのように再生・発展させるかを研究者だけでなく、産業・市民・行政が集まって絶えず考えていかなければならないことを述べられました。

私たちは、竹内先生の教えを胸に、犬山学を発展させていくことを誓い、お別れの言葉としたいと思います。ありがとうございました。

### 講師プロフィール

経営学部 教授、犬山学研究センター長

中村 真咲

# 名鉄広見線沿線の地学

岩石や地層の性質や種類のことを地質と言います。大学や博物館では一般向け見学会が行われますが、機会が限られています。そこで専門家なしで地質を理解できる案内があれば便利です。このたび「名鉄広見線沿線の地学」を作成しました。この中では各務原線や小牧線の一部も扱いました。

この地域の地質形成史は次のようになります。ジュラ紀(1億5000万年前頃)に形成時代や場所が異なるチャート、砂岩、泥岩が一体(付加体)となりました。白亜紀(8000万年前頃)には花こう岩マグマが地下で固まりました。新第三紀はじめ(2000万年前頃)には日本列島が大陸から分離するのに伴い、火山活動が活発になり火山砕屑物が堆積し、続いて砂岩や泥岩が堆積しました。新第三紀終わり(500万年前頃)、湖に砂れき層が堆積しました。第四紀中頃(100万年前)から最近にかけて段丘堆積物や沖積層が低地に形成しました。



地質図 枠(ローマ数字)は地質案内の範囲

広見線沿線ではこの形成史に沿った地質を観察することができます。地質図に記したローマ数字で紹介します。

III(善師野駅-つがお山-富岡前駅ルート)：チャート、泥岩(中村層)、れき層を観察できます。亜炭ほりあとがあります。

IV(可児川駅-鳩吹山-西可児駅ルート)：チャート、火山れき凝灰岩(蜂屋層)、泥岩(中村層)を観察できます。マンガン鉱山跡があります。

V(日本ライン今渡駅付近)：蜂屋層の火山れき凝灰

岩や凝灰質砂岩を観察できます。

VI(新可児駅-JR下切駅ルート)：中村層の砂岩や泥岩を地層として観察できます。

VII(明智駅から旧八百津線沿い)：チャートとそれに伴うマンガン鉱山があります。

VIII(御嵩駅-みたけの森-御嵩口駅-顔戸駅ルート)：花こう岩を観察できます。中村層の泥岩や第四紀のれき層も分布しています。

IX(小牧線 羽黒駅-尾張富士-楽田駅)：花こう岩やチャートを観察できます。

X(各務原線 新鵜沼駅付近)：中生代のチャート、泥岩、砂岩からなる付加体を観察できます。

この「名鉄広見線沿線の地学」を参考に、地質観察に出かけていただければ幸いです。

## 名鉄「広見線」沿線の地学



名古屋経済大学 犬山学研究センター

2021年

「名鉄広見線沿線の地学」表紙

### 講師プロフィール

犬山学研究センター 客員教授

高橋 裕平

## 犬山学ネットワーク参加機関 2021年度活動予定

### 【今後の活動予定】

#### ●学校法人足立学園 愛知文教大学

愛知文教大学では2021年度の活動として、犬山の歴史と文化遺産について文献史学・考古学・民俗学など多角的な視点から学ぶ授業「地域の歴史と文化遺産」(犬山学)の開講を予定しています。この授業では、犬山の歴史と文化遺産についての知識を身につけるほか、大学における地域研究の重要性についても学ぶことを目的としており、名古屋経済大学「犬山学ネットワーク」を含め、近隣大学における地域研究の取り組みについても触れる予定です。

なお、例年実施してきた市民向けの講座「犬山学サテライト講座」は、コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から、2021年度は休止の予定となっています。



#### ●特定非営利活動法人 犬山里山学研究所

2020年度は「コロナ禍」で活動が大きく狂ってしまった反省に立ち、2021年度活動計画の基本を、以下のように定める。(1)外的条件に左右されない調査研究体制を確保する。(2)市民講座を人が集まる体験型と知識を学ぶ学習型に分ける。(3)体験型講座は多様・分散型で実施し、テーマとフィールド編成、参加者数と参加機会頻度、スタッフ配置数、などの面で工夫し、自粛が萎縮にならないよう配慮する。(4)知識学習型は、通信制を採用し、テキスト送付と質疑交換システム編成による双方向性確保に努める。また、設備整備を待ち、対面型講座を実施する。(4)里山学センターでの展示は、「里山の暮らし」を基軸にした「ポストコロナの時代」を、地域の歴史を振り返る中で展望する。(5)ホームページを更新したので、随時ホットニュースを配信する。



#### ●公益財団法人 犬山城白帝文庫

白帝文庫は毎年、城とまちミュージアムにて企画展・特別展を1回ずつ開催しています。2021年度は、4月21日(水)～5月26日(水)に企画展「よみがえる文化遺産 一修復と復元―」として白帝文庫の主要な事業の一つである文化財修復事業の成果を、10月28日(木)～12月2日(木)に特別展「犬山城主成瀬家の家臣たち」として成瀬家家臣団の構成や活動、伝来資料などを取り上げて展覧会を開催する予定です。上記以外の期間は「犬山城と城下町」のテーマでの常設展となります

が、月1回程度のペースで随時展示替えを行います。また、講座「古文書に親しむ」「古文書を読む」、歴史文化に関する講演会も予定しています。



#### ●国立大学法人 京都大学霊長類研究所

COVID-19の影響で、京都大学霊長類研究所では2020年度の活動が大幅に制限される事態となりました。海外の動物実験によって、飼育しているサル類がCOVID-19に感染するおそれがあることが示されたため、大学本部や愛知県に先んじて所員の活動制限に関する通知を出し続ける作業に追われました。日常的な業務では、国内外からの研究者やインターンの来訪を制限して感染防止に十分に配慮しながらサル類の飼育管理をおこない、実験・研究を継続してきました。海外活動はほとんどすべて延期。また毎年、開催している公開講演会やオープンキャンパスも中止せざるを得なくなりました。2021年度はCOVID-19感染の状況をよく判断しながら、オンラインを大幅に取り入れた活動で、犬山学ネットワークに貢献したいと考えています。



#### ●特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

地域に残され伝えられてきた有形・無形の文化遺産を、街づくりの基本として位置付け「文化遺産の見える街づくり」をミッションとして活動。犬山城下町に残る登録有形文化財「木之下城伝承館・堀部邸」および国史跡「青塚古墳公園」、名古屋市しだみ古墳群ミュージアムを活動拠点。

犬山市に所在する国史跡「東之宮古墳」の史跡整備に合わせ、近接する古墳や遺跡(史跡公園など)を繋ぎ、連携して散策や見学会などさまざまな企画を実施し、魅力的な街づくりとしての文化遺産街道を展開。災害の歴史、伝承や物語が見える化し、本当に必要な歴史情報を平易な形で伝える事業を展開していきます。



#### ●国立大学法人 東京大学大学院農学生命科学研究科付属 演習林生態水文学研究所

東京大学生態水文学研究所では毎年春と秋に研究林内の見学コースを歩きながら、生態水文学研究所について学んでもらう「ふれあい自然観察会」を犬山市主催で開催しています。観察会では本所職員による犬山研究林の歴史や砂防工事遺構の紹介のほか、本所のサポート団体の犬山研究林利用者協議会による研究林内の動植物の説明が受けられます。ま

た、2021年度は犬山市民大学講座環境学部  
の講座を担当し、現地講義を含む全3回の講  
義で犬山研究林の成り立ちや現在行っている  
研究についても紹介する予定です。



●公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館

徳川美術館では、現代日本画家とのコラボレーションによる新  
機軸の特別展「刻を描く 田淵俊夫」展(4/18～5/30)を皮切  
りに、今年も歴史・古美術ファンをはじめ幅広い層にお楽しみ  
いただける展覧会をさまざまに企画しています。京・大和・九州  
の名刀を紹介する特別展「名刀紀行」展(6/5～7/11)、また  
昨年、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期となった特別展  
「家康から義直へ」展(7/17～9/12)、秋には尾張徳川家の  
女性たちの生涯にスポットを当てた特別展「尾張姫君ものがた  
り」展(9/18～11/7)、さらには修復事業完了を記念した「国  
宝 源氏物語絵巻」の館蔵全巻公開(11/13～  
12/12)などを開催します。その他、石川県立歴  
史博物館では「尾張徳川家の至宝」展(10/9  
～11/23)として当館の名品をご覧いただく予  
定です。



●公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所

2021年度の活動は、例年通り、所蔵史料の整理・目録化作業  
と併せて、犬山城白帝文庫の協力を仰ぎながら尾張藩関係  
史料の調査・研究を進めます。林政史関係では、ここ数年来の  
成果として、尾張藩林政史の実態を解説したブックレットを編  
集・刊行する予定です。尾張藩関係では、尾張家2代徳川光  
友の事蹟集を編纂中で、これも年度内の刊行を目指していま  
す。教育・普及活動においては、徳川美術館での古文書講  
座・江戸学講座を実施します。コロナ禍を想定してリモート形  
式の講座も視野に入れて準備しているところで  
す。コロナ禍で活動も制約されますが、在宅作  
業制を導入して、若手研究者の育成活動にも  
尽力していきます。



●国立大学法人 名古屋大学博物館

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、当館の2020年度の活  
動はかなり制限されることとなった。2021年度の状況は未だ  
見通せない状況であるが、今のところ下記の展示(特別展)や  
活動を予定している。

4月27日～11月6日	結晶展
5月22日・23日	地球教室
5月26日	野外観察園見学会

6月10日～13日	名大祭
8月10日～12日	オープンキャンパス
8月21日・22日	地球教室
10月16日	ホームカミングデー
11月6日・7日	地球教室
11月17日	野外観察園見学会
11月30日～2022年2月26日	木彫りの熊展
2022年2月26日・27日	地球教室
2022年3月22日～(9月24日)	発酵食展

この他にも企画を予定している。詳しくは下記ホームページを  
参照されたい。



●国立大学法人 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震  
火山研究センター

本センターは、地震・火山災害の軽減を目指し、地震や地殻  
変動、火山活動の仕組みの解明と予測に向けた研究と教育  
を行っています。本センターの歴史は1965年に設置された犬  
山地震観測所に始まります。森林の中の堅固な岩盤に位置し  
て静かという利点を生かして、壕内で地震や地殻変動の長期  
に渡る観測を行っています。国際的な地震観測網を構成する  
広帯域地震計も設置されており、レーザひずみ計など最先端  
の機器の試験も行われています。観測所は普段は無人で、定  
期的に職員が訪れています。2021年度も犬山観測所を含む  
地震・地殻変動観測点での観測を継続し、この地域の地殻  
活動を注視するとともに、活断層構造調査や  
御嶽山火山の活動把握などの研究活動も実  
施します。



●公益財団法人 日本モンキーセンター

日本モンキーセンターでは、来園者の減少など苦しい状況が  
続いています。これを補うべく、「おうちどうぶつえん」やガイドの  
配信など、オンラインでの情報発信に力を入れています。2020  
年11月から1月にかけて開催した「オンライン霊長類学基礎講  
座」は好評を博し、現在は続編の講座を開催しています。また、  
2020年度は中止となった連続講座「京大モンキーキャンパス」  
も、2021年度はオンラインを併用したハイブリッド開催とする予  
定です。とはいえ、動物園の真の魅力は画面越しではなく、現  
実の生きた動物たちにあります。来園者が存分に動物たちを観  
察し、霊長類について理解を深められる日常が戻ることを願っ  
てやみません。

T O P I C S



左側<日本モンキーセンター おうちどうぶつえん>  
中央<続・オンライン霊長類学基礎講座>  
右側<京大モンキーキャンパス>

●公益財団法人 博物館明治村

2021年度の博物館明治村の活動は、野外博物館の利点を生かしつつ、新型コロナ感染症対策を行い、シリーズ最終章を迎える春の謎解きゲーム「明治探偵GAME」と秋の謎解きゲームや、夏冬の夜間開館「宵の明治村」「きらめき明治村」を安全に開催するべく準備をしています。「学び」の要素としては、2020年度に整備した第四高等学校物理化学教室で博物館明治村公式おもてなしグループ明治偉人隊のメンバーが、学校団体向けのレクチャーを行う普及活動や、2020年度に文化庁文化芸術収益力強化事業に参画して制作した映像などを、国内のみならず海外へのプロモーションにも活用し、アフターコロナを見据えた外国人観光客の誘客にも努めていく予定です。



●野外民族博物館リトルワールド

「海外旅行で感じる高揚感を！」リトルワールドでも体験・体感していただくために2021年度春については、下記のイベントを予定・実施しています。

- ・イベントグルメ 「世界のサンドウィッチ&スープ」  
16の国・地域のサンドウィッチとスープが楽しめる
- ・特別展「こ・わ・い・モノ」

「こわい」という感情はどのように生まれるのか、民族資料を通して体験・体感

- ・「世界のショートフィルム&CMショー」

世界各地のショートムービー&CMを上映  
夏以降も世界の体験・体感できるイベントを展開していきます。



T O P I C S

名古屋経済大学犬山学研究センター

2020度はコロナ禍の影響で、全てのイベントを中止しましたが、2021年度からは「Withコロナ」を念頭に置き、「今できること」を模索していきたいと考えております。

社会情勢を見極めつつ、様々な方向へ目を向け、安心していただけるイベントの開催に向けて準備をしております。

それぞれの詳細な日程などが決まりましたら、ホームページなどでお知らせしますので、よろしくお願いいたします。

【今後の活動予定】

●犬山市民総合大学 敬道館(名古屋経済大学オープンカレッジ)

「広見線地質ガイド」「成瀬家に伝来した藤原定家小倉色紙をめぐって」を実施します。

※詳細は犬山市の広報誌またはホームページでご確認ください

2021年度活動予定

●犬山学サロン

「犬山・名古屋の戦争遺産」「伝統建築工匠の技」「江戸時代の犬山」などの講座を予定しています。

●名鉄広見線「地学マップ」

名鉄広見線100周年に合わせて、沿線の地層などを紹介する「地学マップ」を作成しています。こちらをもとにした地層見学会の開催を企画中です。

●名鉄小牧線「歴てつマップ」

名鉄小牧線90周年に合わせて、沿線の古代・中世の文化遺産を紹介する「歴てつマップ」を作成しています。こちらも市民参加型イベントを企画中です。

